

# 大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会

## 第1回委員会 議事要旨

日 時：平成15年6月5日(木) 10:00~12:00

場 所：新大阪シティプラザ 2階「華」

出席者：

委員長	渡	正亮(地すべり学会顧問)
委員	吉松	弘行(砂防・地すべり技術センター斜面保全部長)
"	中村	康夫(独立行政法人土木研究所地質官)
"	永山	功(独立行政法人土木研究所水工研究グループ長)

議事について：

### 1. 委員会設立について

設立趣意書および規約ともに異議なく、委員会が設立された。

### 2. 委員長の選出

規約に基づく委員の互選の結果、委員長に 渡 正亮 地すべり学会顧問が選出された。

### 3. 観測データの確認について

現在までの観測データについて確認を行った。地表変動を計測する地盤傾斜計、地盤内の変動を計測する孔内傾斜計、地盤および構造物の湛水試験後に発生あるいは拡大したと思われる亀裂に設置された地盤伸縮計とクラックゲージについては、貯水位の保持以降、全体的に収束傾向にあることが確認された。5月31日63mmの降雨でも変動は確認されなかった。地下水位は、貯水位変化に対して追従性が良いことが確認された。

### 4. 緊急調査の内容について

原因究明と監視体制充実のため、今後共孔内傾斜計による地盤内の変動を把握することが重要とされた。ボーリング調査による地質確認と計測資料の追加など調査内容については了承されたが、調査方法については、全体の動きを把握するためGPS及び孔内伸縮計設置も考慮することとした。

### 5. 出水期に向けての対応について

湛水と地すべりの挙動について実例にもとづき、上昇時下降時の水位管理の重要性について委員長より説明があった。

審議の結果、十分な監視観測体制をのものと、慎重に貯水位を1日50cm以内で水位270mを目標に低下させることが了承された。

水位を低下させ、水没している法面保護工に変動が生じていないか、調査することが重要であると提言された。

### 6. その他

次回については、緊急調査の結果が整う8月に現地で実施する予定とした。ただし、必要な場合はそれ以前においても、委員会を開催することを確認した。